

# 平成 2 9 事業年度における業務実績報告書

抜 粋

平成 3 0 年 6 月  
公立大学法人和歌山県立医科大学

## 目 次

1 法人の自己評価に対し「1名」の委員が異なる評価をつけた項目（23項目）	……	3
---------------------------------------	----	---

# 1 法人の自己評価に対し「1名」の委員が異なる評価をつけた項目（23項目）

## 第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-41)(IV-2)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

### (1) 教育の内容及び成果に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
学部教育					
ウ	カリキュラムポリシーに則り、社会人として必要な教養とともに医療人として必要な倫理観、共感的態度やコミュニケーション能力、ケアマインドを育成できる参加型教育を行う。	<p>a 1年次から患者及び家族と触れ合い、精神的・肉体的弱者の心に共感できる能力を育成するとともに、能動的に体験できる場を提供し、体験実習を通してケアマインド、コミュニケーション能力を向上させる取組を継続する。〈医学部〉</p> <p>1年次に、医学部と保健看護学部の合同講義として、患者及び患者家族の会から直接話を聞き、両学部の学生が話し合うケアマインド教育を行い、障害や疾病を有する方々の精神的、社会的背景を理解する能力を向上させた。また、夏休みに、早期体験実習を実施し、臨床の現場を体験させることにより、チーム医療の重要性を理解させた。老人福祉施設実習では、老人福祉施設の形態の理解及び形態に伴う入所者の個人差の理解とともに、高齢者とのコミュニケーションスキルを向上させた。</p> <p>2年次には、保育園実習を2週間実施し、乳幼児と接することで年齢に伴う発達程度、個性の出現を理解させるとともに乳幼児に対する意思伝達の方法を体験させた。</p> <p>また、障害者福祉施設実習も2週間実施し、障害者の状況、社会における立場及び家庭における立場について理解させ、支援状況に関する知識も修得させることができた。加えて、障害者とのコミュニケーションも体験させた。</p> <p>4年次の共用試験の準備教育の際に、医学部と保健看護学部が合同で、診察および情報共有のためのシミュレーション教育を行った。</p>	III	IV	

ケアマインド教育

対象：医学部1年生、保健看護学部1年生

テーマ	コマ数
脊椎損傷	1
チーム医療	1
和歌山の地域性から見た医療	2
脳性麻痺	1
がん	1
視覚障害	1
ダウン症	1
薬害	1
行政・司法	2
グループワーク・発表	11
合計	22

実施施設数及び実習者数（医学部）

		27年度	28年度	29年度
1 年 次	早期体験実習 (1週間)	11施設 100名	11施設 99名	11施設 100名
	老人福祉施設実習 (5日間)	25施設 100名	24施設 99名	24施設 100名
2 年 次	老人福祉施設実習 (2日間)	5施設 99名	5施設 99名	5施設 101名
	障害者福祉施設実習 (2日間)	6施設 99名	6施設 96名	7施設 101名

第 2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置	自己評価	【S-Ⓐ-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-41)(IV-2)】
	委員会評価	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(1) 教育の内容及び成果に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
<b>大学院教育</b>						
ア	修士課程において、高度な専門的知識と研究能力を向上させるため、設置科目をさらに充実させ、生命に対する倫理観の高揚を図る。	<p>b 学生個々の関心に対応した選択ができるよう、共通科目と健康科学領域、基盤看護学領域、生活・地域保健学領域で 40 以上の授業科目を開設する。</p> <p>また、高度な専門職業人を育成するために開設したがん看護専門看護師コースの充実を図る。〈保健看護学研究科〉</p>	<p>共通科目、健康科学領域、基盤看護学領域及び生活・地域保健学領域において前年度と同様に計 48 科目を開設することにより、学生個々の関心に対応しつつ、高度な専門的知識と研究能力の向上を促進した。</p> <p>&lt;論文コース&gt; 開設科目数 (計 48 科目) 共通科目：17 科目 健康科学領域：10 科目 基盤看護学領域：10 科目 生活・地域保健看護学領域：10 科目 特別研究：1 科目</p> <p>&lt;がん看護専門看護師コース&gt; 開設科目数 (計 44 科目) 共通科目：17 科目 健康科学領域：5 科目 基盤看護学領域：12 科目 実習：4 科目 課題研究：1 科目</p>	Ⅲ	Ⅳ	

第 2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-㊸-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-41)(IV-2)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
ア 学生の学習、健康、生活等の問題に対して対応できるよう支援体制の充実を図る。	<p>a 平成 28 年度に引き続き、学生の相談窓口として、1 年生、2 年生に担任を、各クラブに新生入生をサポートする学生（メンター）を配置するとともに、学生部長にメールで相談できる「相談ホットライン」を設置する。加えて、カウンセリングを行う相談支援専門員を配置する。</p> <p>なお、学修、健康について特に問題のある学生に対しては、担任及び学生部長が面談を実施する。</p> <p>また、学長ランチミーティング、クラブ活動支援は引き続き実施する。〈医学部〉</p>	<p>学生がより相談しやすい仕組みを下記のとおり構築した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>担任制の対象学年を 1・2 年生とし、担任の目が行き届くように教員一人当たりの学生数を 10 名未満とした。 担任教員数：教養・医学教育大講座 13名 基礎 29名 臨床 6名</li> <li>各クラブに新生入生等が抱える学習面での不安、大学生活での疑問などに助言しサポートする者（メンター）を 1～2 名配置した。28 クラブ 30 名。</li> <li>担任と向かい合って相談しづらい案件に対応するため、学生部長に直接メールで相談できるよう設置した「医学部生の相談ホットライン」で 6 件の相談を受けた。</li> <li>平成 28 年度から健康管理センターに臨床心理士を配置した。 29 年度の相談：4 名 19 回の相談があった。</li> </ul>	III	IV	

			<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の進級判定・卒業判定の透明性を確保するため、27年6月から進級判定・卒業判定に対する学生からの異議申し立ての制度を設けた。</li> </ul> <p><b>異議申立件数</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2件</td> <td>6件</td> <td>2件</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、学長ランチミーティングについては、5年生全員を対象に実習グループごと毎週水曜日に実施した。</p> <p>学生の課外活動への支援として「課外活動支援助成金」を32団体に、「課外活動大型備品購入等支援助成金」を8団体にに対し助成を行った。</p>	27年度	28年度	29年度	2件	6件	2件			
27年度	28年度	29年度										
2件	6件	2件										

第 2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-⑤-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-0)(II-1)(III-11)(IV-2)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(1) 研究水準及び成果等に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
ア がんに関する研究をはじめとして、和歌山県で重点的に取り組まなければならない分野について、医の倫理に基づき、先端医学研究所を核とした先進的な研究を行うとともに、独創的研究の取組及び発展を促進する。	がん治療をはじめとするさまざまな分野での研究を推進するため、先端医学研究所を核とした研究活動に加え、臨床研究センターを活用した先進的な臨床研究を推進する。	<p>iPS 細胞由来の樹状細胞を用いて消化器固形癌に対するワクチン効果を初めて確認した。</p> <p>日本で初めて実施する標準療法不能膀胱癌に対する樹状細胞ワクチンの医師主導治験において、治験製品の投与を開始した。</p> <p>自然科学研究機構生物学研究所、東北大学との共同で、大脳皮質から大脳基底核へ情報が伝わる様子を、光を使って解明した。</p> <p>金沢大学との共同で「特発性肺線維症」の発症メカニズムを解明し、肺線維症を軽減させる細胞の働きを見いだした。</p> <p>注意欠如・多動性障害 (ADHD) が合併した自閉症について、原因が脳の神経細胞「シナプス」内の遺伝子異常にある可能性が高いことを解明した。</p> <p>京都府立大学、近畿大学、大阪医科大学、奈良医科大学との共同で「高齢者の生活の質を向上させるための新しいアシスト技術の開発に関する研究」について、世界保健機関 (WHO) から開始の承認を受けた。</p> <p>MR I 脳画像の検討結果をもとに、性別は脳のネットワーク構造に影響を与えることを解明した。</p> <p>臨床研究センターを活用した研究については、下記のとおり実施した。</p>	IV	III	—



研究課題名	研究代表者	臨床研究センターの支援内容
パーキンソン病患者におけるレドパ/DCI 配合治療剤へのセレギリンあるいはゾニサミドの上乗せ効果に関する無作為化比較第Ⅱ相試験	神経内科学講座 伊東 秀文 教授	研究計画書の作成支援、CRF（症例報告書）の作成支援、被験者登録・割付業務、データマネジメント、モニタリング、臨床試験デザイン、統計解析、事務局窓口
去勢抵抗性前立腺癌に対する Abiraterono と Enzalutamide に関する無作為割り付け試験	泌尿器科学講座 原勲 教授	研究計画書の作成支援、CRF（症例報告書）の作成支援、被験者登録・割付業務、データマネジメント、モニタリング、臨床試験デザイン、統計解析
膵体尾部切除での膵実質切断における脾静脈剥離-個別処理と脾静脈同時切断の多施設共同無作為化比較第Ⅲ相試験	外科学第二講座 山上 裕機 教授	研究計画書の作成支援、CRF（症例報告書）の作成支援、被験者登録・割付業務、データマネジメント、モニタリング、臨床試験デザイン、統計解析

			<p>Borderline resectable 膵癌に対する gemcitabine + nab -paclitaxel 術前化学療法 of 生存期間に対する有効性・安全性に関する多施設共同第II相試験</p>	<p>外科学第二講座 山上 裕機 教授</p>	<p>研究計画書の作成支援、CRF（症例報告書）の作成支援、被験者登録・割付業務、データマネジメント、モニタリング、臨床試験デザイン、統計解析</p>			
			<p>切除不能進行膵がんに発現する疲労・倦怠感に対する TJ-108 ツムラ人参養栄湯の探索的な有効性及び安全性評価</p>	<p>外科学第二講座 山上 裕機 教授</p>	<p>研究計画書の作成支援、CRF（症例報告書）の作成支援、被験者登録・割付業務、データマネジメント、モニタリング、臨床試験デザイン、統計解析</p>			
			<p>標準療法不応進行膵癌に対する S-1 併用 WT1 ペプチドパルス樹状細胞 (TLPO-001) の安全性・有効性を検討する二重盲検ランダム化比較試験 (医師主導治験)</p>	<p>外科学第二講座 勝田 将裕 助教 山上 裕機 教授</p>	<p>研究計画書の作成支援、統計解析</p>			

			<p>転移性膵癌に対する新規 WT1 ペプチドワクチン療法第 I 相試験 (医師主導治験)</p>	<p>外科学第二講座 山上 裕機 教授</p>	<p>研究計画書の作成支援、CRF (症例報告書) の作成支援、被験者登録・割付業務、データマネジメント、臨床試験デザイン、統計解析</p>			
			<p>治療抵抗性小細胞肺癌に対するペムプロリズマブ+アムルピシンの第 II 相試験 (医師主導治験)</p>	<p>内科学第 3 講座 赤松 弘朗 助教</p>	<p>研究計画書の作成支援、CRF (症例報告書) の作成支援、被験者登録・割付業務、データマネジメント、臨床試験デザイン、統計解析</p>			
			<p>EGFR-TKI に不応となった T790M 陽性、進行・再発肺腺癌を対象としたオンメルチニブ+ラムシルマブの第 Ib 相試験 (医師主導治験)</p>	<p>内科学第 3 講座 赤松 弘朗 助教 山本 信之 教授</p>	<p>データマネジメント (一部)、統計解析</p>			
			<p>浸潤性膵管癌に対する膵頭十二指腸切除術における mesenteric approach vs. conventional approach の無作為化比較第 III 相試験</p>	<p>外科学第二講座 山上 裕機 教授</p>	<p>研究計画書の作成支援、CRF (症例報告書) の作成支援、被験者登録・割付業務、データマネジメント、モニタリング、臨</p>			

					床試験デザイン、統計解析			
						〈研究推進課〉		

第 2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-⑤-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-0)(II-1)(III-11)(IV-2)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(1) 研究水準及び成果等に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価																																								
イ 論文発表を促進するとともに、論文の質の向上を図る。	<p>a 英文エディターを活用し、本学教員による英語原著論文の作成支援、インパクト・ファクター（学術研究に関する影響度）の高い学術雑誌への掲載推進を図る。</p> <p>また、臨床研究の実施や統計解析の相談に対応し支援するため、臨床研究センターに臨床研究・統計解析相談窓口を設置する。</p>	<p>英語原著論文の発表促進及び質の向上を図るため、英文エディター（英語論文校正・校閲担当教員）を、平成 27 年 4 月から臨床研究センターに配属し、英語論文の執筆指導や文書校正等を行っている。</p> <p>また、若手研究者等の論文発表を奨励するため、「学術論文奨励賞」を創設し、6 名に賞を授与した。</p> <p>29 年度に医学生物学分野の学術文献サービスである PubMed に収録された論文数は 181 件であった。</p> <p>○PubMed に収録された論文数 (件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>26</th> <th>27</th> <th>28</th> <th>29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>正規教員によるもの</td> <td>139</td> <td>103</td> <td>129</td> <td>116</td> </tr> <tr> <td>その他の研究者によるもの</td> <td>70</td> <td>79</td> <td>46</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>209</td> <td>182</td> <td>175</td> <td>181</td> </tr> </tbody> </table> <p>●英語原著論文数（正規教員が筆頭著者） (本)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>26</th> <th>27</th> <th>28</th> <th>29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>論文数</td> <td>150</td> <td>121</td> <td>134</td> <td>145</td> </tr> <tr> <td>(内訳) 医学部</td> <td>145</td> <td>118</td> <td>130</td> <td>144</td> </tr> <tr> <td>保健看護学部</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	年度	26	27	28	29	正規教員によるもの	139	103	129	116	その他の研究者によるもの	70	79	46	65	計	209	182	175	181	年度	26	27	28	29	論文数	150	121	134	145	(内訳) 医学部	145	118	130	144	保健看護学部	5	3	4	1	II	III	—
年度	26	27	28	29																																									
正規教員によるもの	139	103	129	116																																									
その他の研究者によるもの	70	79	46	65																																									
計	209	182	175	181																																									
年度	26	27	28	29																																									
論文数	150	121	134	145																																									
(内訳) 医学部	145	118	130	144																																									
保健看護学部	5	3	4	1																																									

			また、臨床研究センターに臨床研究・統計解析相談窓口を設置し、臨床研究の実施や統計解析の相談を実施した。 〈研究推進課〉			
--	--	--	--	--	--	--

第 2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 附属病院に関する目標を達成するための措置	自己評価	【S-㊸-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-29)(IV-3)】
	委員会評価	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(1) 医療の充実及び実践に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価									
イ 周産期医療及び小児科医療の充実を図り、胎児から幼児及び母体に対して一貫した専門的な質の高い医療を提供できる診療体制を構築するとともに、救命救急センターやドクターヘリの機能を維持し、県内の救急医療の充実に努める。	a 県内唯一の総合周産期母子医療センターとして、引き続き高いリスクの妊婦や新生児の受け入れを行う。また、新生児搬送用ドクターカーを有効に運用し、分娩医療機関からの新生児の緊急搬送依頼に対応し、受入れを行う。	<p>新生児ドクターカーの運行を前年度に引き続き 365 日 24 時間自主運行することで分娩医療機関からの緊急搬送依頼にも迅速に対応できた。なお、新生児ドクターカーの出動件数は前年度より増加し、ドクターカーが有効に活用されている。</p> <p>平成 29 年度からNICUにも看護師長を配置し看護体制の強化を図った。</p> <p><b>新生児ドクターカーの運行実績</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新生児搬送件数</td> <td>38 件</td> <td>40 件</td> </tr> <tr> <td>うちドクターカー 使用件数</td> <td>36 件</td> <td>38 件</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">〈医事課〉</p>		平成 28 年度	平成 29 年度	新生児搬送件数	38 件	40 件	うちドクターカー 使用件数	36 件	38 件	III	IV	
	平成 28 年度	平成 29 年度												
新生児搬送件数	38 件	40 件												
うちドクターカー 使用件数	36 件	38 件												

第 2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 附属病院に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-㊸-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-29)(IV-3)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(1) 医療の充実及び実践に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価																																
ウ 医療機関・介護機関等と連携を図りながら、県内の認知症に対する保健医療水準の向上を図る。	関係機関との連携協議会、研修会、事例検討会、市民公開講座を開催し、認知症の普及啓発活動の推進と保健医療水準の向上を図る。	<p>認知症連携協議会、市民公開講座、事例検討会を継続開催した。</p> <p>事例検討会については初めてグループワークを行い、地域の認知症に関わる医療及び介護の関係機関との連携向上を図った。</p> <p>また、ホームページの更新とパンフレット2種各500部ずつ作成し、認知症についての普及啓発を推進した。</p> <p>これらの取り組みにより、認知症の保健医療水準の向上に寄与することができた。</p> <p style="text-align: right;">(参加者：人)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>27</th> <th>28</th> <th>29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">研修会</td> <td>参加者</td> <td>210</td> <td>130</td> <td>*①</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>95%</td> <td>85%</td> <td>*①</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">市民公開講座</td> <td>参加者</td> <td>229</td> <td>94</td> <td>224</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>98%</td> <td>89%</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">事例検討会</td> <td>参加者</td> <td>130</td> <td>64</td> <td>23*②</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>88%</td> <td>93%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>*①研修会 29年度は市民公開講座と共催で実施。参加者数等は市民公開講座に一括計上</p> <p>*②事例検討会 29年度は和歌山市内関係者のみを対象に実施 (医事課)</p>			27	28	29	研修会	参加者	210	130	*①	満足度	95%	85%	*①	市民公開講座	参加者	229	94	224	満足度	98%	89%	98%	事例検討会	参加者	130	64	23*②	満足度	88%	93%	100%	III	IV	
		27	28	29																																	
研修会	参加者	210	130	*①																																	
	満足度	95%	85%	*①																																	
市民公開講座	参加者	229	94	224																																	
	満足度	98%	89%	98%																																	
事例検討会	参加者	130	64	23*②																																	
	満足度	88%	93%	100%																																	



第 2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 附属病院に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-㊸-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-29)(IV-3)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(1) 医療の充実及び実践に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
エ 紹介患者の積極的な受入、紹介元医療機関への受診報告をはじめとする診療連携や診療情報の共有化を推進するとともに、確たる仕組みを構築し、地域医療機関等との連携強化を図る。	b 地域医療連携室を核として、地域医療機関及び地域福祉施設、ケアマネージャーとの連携を強化し、円滑な患者の受入及び退院を図る。〈紀北分院〉	伊都地域の医療機関との連携を深めた。 患者紹介率：49.5% (平成 28 年度 45.27%) 逆紹介率：54.14% (28 年度 43.18%)  伊都地域の保健医療機関延べ 60 箇所を訪問、また居宅介護支援事業所・地域包括支援センター・地域福祉施設延べ 104 箇所の職員と面会し、連携の強化を図った。 伊都医師会が主催する「医療と介護の連携代表者会議」(6月、9月、12月の年3回開催)(メンバー：医師会会員及び管内各病院代表、伊都地域全地域包括支援センター、伊都歯科医師会、伊都薬剤師会、伊都地域ケアマネ、訪問看護ステーション代表、ほか)に参画し、同会議主催の研修会「口腔ケアのすすめ」(4月15日)に参加した。 また「伊都医師会病診連携委員会」に(5月、7月、9月、11月、1月、3月の年6回開催)に出席し、医療・介護の情報交換による連携強化を図った。 橋本保健医療圏域在宅医療・介護連携推進協議会(6月、9月、12月、3月の年4回開催)(メンバー：郡市医師会、和歌山県病院協会・伊都歯科医師会、伊都薬剤師会、県看護協会伊都支部、介護支援専門員協会伊都橋本支部、伊都地区各病院、訪問看護ステーション、市町村在宅担当課長、地域包括支援センター、保健所など)に参加、また「伊都	III	IV	

			<p>橋本地域神経難病支援医療・保健・福祉連絡協議会」(12月開催)(メンバー:伊都地域各病院、訪問看護ステーション、市町村福祉担当者、伊都振興局健康福祉部)に出席し、伊都地域の在宅医療の提供体制の構築に参画した。</p> <p>かつらぎ町内の居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション包括支援センターと「多職種交流会」(6月、11月、12月、年3回開催)かつらぎ町内のケアマネジャー、訪問看護ステーションとの連携強化を図った。</p> <p>かつらぎ町介護保険事業計画及び高齢者福祉計画書作成委員会(10月、11月、12月、2月開催)に参加しかつらぎ町の高齢社福祉事業体制の構築に参加した。</p>			
--	--	--	---	--	--	--

第 2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 附属病院に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-㊸-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-29)(IV-3)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(1) 医療の充実及び実践に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
キ	医療安全及び感染制御の更なる体制強化により安全管理体制の充実を図るとともに、安全で質の高い医療を提供する。	a 特定機能病院承認要件見直しに伴い、医療安全管理体制を強化するとともに、ガバナンスの確保を図る。	<p>特定機能病院として医療安全管理体制の強化を図るため、平成 29 年 4 月 1 日付で医療の安全に関する基本指針及び医療安全推進規程を全面改訂するとともに、医薬品安全管理規程及び医療機器安全管理規程を制定した。その中で、医療安全管理部門（当院では医療安全推進部）、医療安全管理委員会（当院では医療安全推進委員会）、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務を統括する医療安全管理責任者として、医療安全推進委員長である副院長を充てることとした。</p> <p>また、医療安全推進部への専従の医師、薬剤師及び看護師の配置のうち、医師については、30 年 4 月に専任医師 2 名体制とし、32 年 4 月には専従医師 1 名、専任医師 1 名の体制とすることを予定している。なお、薬剤師は 19 年 4 月から、看護師は 15 年 4 月から、それぞれ専従で配置し、特定機能病院の要件の基準を満たしている。</p> <p>〈医療安全推進部〉</p>	III	IV	
		c 安全な医療を提供するため、各部署の安全管理を担うリスクマネージャーの育成等に努めるとともに、医療安全に係る必要な会議、研修を行	<p>予定通り、医療安全推進委員会を開催し、アクシデント事例を中心に再発防止に向けた検討をし、必要な対策を立案した。(医療安全推進委員会：毎月 1 回開催)</p> <p>予定通り、リスクマネージャー会議を開催し、インシデント、アクシデント事例の共有と再発防止策の周知徹底、院内ラウンド、カルテ監査等、部門における安全管理を担</p>	III	IV	

		<p>う。</p> <p>また、患者急変に対応できるBLS (Basic Life Support、一次救命措置) 教育を継続する。</p>	<p>っていただいている。(リスクマネージャー会議：5月、6月、7月、9月、10月、11月、1月、2月、3月実施)</p> <p>5月及び10月のリスクマネージャー会議後に外来講師を招いた特別研修を開催し、リスクマネージャーの資質向上に努めている。</p> <p>5月「患者と医療者が協働する医療を目指して」 10月「DNARの正しい知識とDNAR指示の適切な運用について」</p> <p>全職員対象の研修は、予定通り実施し、eラーニングも開催している。</p> <p>今年度から研修医と同様に看護師もアメリカ心臓協会 (American Heart Association, AHA) の「AHA心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドライン」に準拠したBLS講習会を受講することにした。他のメディカルスタッフ、事務職員36名に対しては3月にBLS講習会を開催した。</p> <p>(医療安全推進部)</p>			
		<p>d 医療安全及び院内感染対策を推進するため、医療安全推進委員会及び感染防止対策委員会を中心に医療従事者の安全意識と感染防止の意識を向上させる。(紀北分院)</p>	<p>全職員を対象にした医療安全及び感染対策の研修会を開催し、医療安全と感染防止の意識向上につなげることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>医療安全研修会</b> 開催数：9回 (平成28年度5回) 参加者数：635名 (28年度352名) 年2回以上出席達成率：100.0% (28年度86.0%) 研修内容 前年度報告 (4月)、救命救急 (6月)、輸血の取扱 (7月)、ポンプ類の取扱 (8月)、造影剤の副作用 (9月)、A i (9月)、転倒予防、感電・漏電予防 (12月)、記録の重要性 (3月)、</li> <li>・ <b>感染対策研修会</b> 開催数：12回 (28年度6回) 参加者数：532名 (28年度440名) 年2回以上出席達成率：97.4% (28年度96.7%) 研修内容 前年度報告 (4月)、感染管理相談 (6月)、標準予防策 (6月)、結核検査 (10月)、流行性疾患 (11</li> </ul>	III	IV	

			月)、つながる感染対策（1月）															
		e 院内感染対策を推進するために、教育・啓発活動により各部門との連携を強化するとともに、人材育成に努める。また、他施設との連携を深める。	<p>全職員を対象に感染予防対策研修会を計画に沿って実施し、知識向上を図った。従来の講義、DVD研修、出張研修に加えて、E-ラーニングを導入し、教育体制を強化した。</p> <p>○平成 29 年度 5 回開催（28 年度 5 回） ○未受講者数 20 名（28 年度 25 名） ○研修会参加者数（名）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>24</th> <th>25</th> <th>26</th> <th>27</th> <th>28</th> <th>29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,496</td> <td>3,493</td> <td>3,930</td> <td>4,090</td> <td>4,115</td> <td>4,407</td> </tr> </tbody> </table> <p>感染対策委員会、ICT 会議、感染対策マネジャー会議において、感染制御に関連する情報の共有、検討事項について協議し、関係部署との連携を図った。</p> <p>リンクナースには研修を実施し、知識向上を図るとともに、ICT ラウンドへの同行、手洗い講習会の企画運営を通して、自部署における感染対策マネジャーとしての活動を支援した。</p> <p>感染症発生動向を監視し、ICT ラウンドで薬剤耐性菌患者と感染対策の実施状況の確認、聞き取り調査を行った。必要時は指導し、その結果を感染予防対策委員会で報告後、感染対策マネジャーを通して各部署に周知した。</p> <p>広域抗菌薬、抗 MRSA 薬投与時の各種検査等の有無を確認し、必要時は検査を依頼するとともに、薬剤投与方法や期間について助言を行った結果、広域抗菌薬長期使用症例数は減少に転じた。</p> <p>○広域抗菌薬投与前培養提出率 29 年度 92.4%（28 年度 86.1%） ○広域抗菌薬長期使用介入症例数 164（28 年度 174） 介入後の改善症例数 151（28 年度 118） ○血液培養 2 セット提出率 29 年度 86.5%（28 年度 78.3%）</p> <p>感染制御関連の相談を受け、各部署における問題解決を支援した。特に感染症診断治療に関する相談が増えており、</p>	24	25	26	27	28	29	3,496	3,493	3,930	4,090	4,115	4,407	III	IV	
24	25	26	27	28	29													
3,496	3,493	3,930	4,090	4,115	4,407													

昨年より約 1.5 倍増となった。

相談件数

24	25	26	27	28	29
674	662	818	1095	994	966

\*うち感染症診断治療 140 件 (28 年度 102 件)

地域の感染防止対策加算算定施設、和歌山市保健所等とカンファレンスを開催し、情報共有と意見交換を行うとともに、加算 2 施設との相互チェックを開始し、連携をより強化することができた。

(感染制御部)

第 2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 附属病院に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-㊸-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-29)(IV-3)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(1) 医療の充実及び実践に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
ク	患者に安全・安心で信頼できる医療を提供するため、病院医療水準の向上を図る。	a 患者に信頼される医療サービスを提供するため、医療従事者の意識の向上及びチーム医療の充実を図り、病院医療水準の向上を図る。〈紀北分院〉	医療安全対策を推進するため、医療安全推進委員会及びリスクマネージャー会議を毎月(各12回)開催し、また、橋本市民病院・紀和病院と連携した病院ラウンドを年1回実施することによって、医療従事者の医療安全意識の向上を図った。	III	IV	
		b 前年実施した患者満足度調査の結果を、他病院と比較するとともに経年変化を確認することにより、問題点を把握し、より良い患者サービスを提供するため、平成29年度も引き続き患者満足度調査を実施する。	平成29年度も引き続き患者満足度調査を実施した。診察面での満足度は全体的に高かったが、施設面や待ち時間での満足度が低かった。 また、受付から診察までの平均待ち時間が長くなり、満足度も前年度に比べ低下した。 施設面についても、トイレ等の設備面や案内看板や表示のわかりやすさで満足度が低く、待ち時間と合わせ、今後の患者サービス向上に向けた検討課題が明らかとなった。 (医事課)	III	II	

第 2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 附属病院に関する目標を達成するための措置	自己評価	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-29)(IV-3)】
	委員会評価	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(2) 地域医療への貢献に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
ア 基幹災害医療センター(総合災害医療センター)としての役割が果たせるよう、研修・訓練を重ね、絶えずマニュアルの見直しを行う。	災害に対する研修や訓練を実施し、災害対策マニュアルの見直しを継続するとともに、食糧等を引き続き備蓄する。	<p>各種訓練の実施により、職員の危機意識の向上や災害時の役割について理解を深め、災害対策委員会・実務担当者会議において、訓練の結果をふまえて、課題点の整理を行うとともに、マニュアルの見直し等を行った。</p> <p>また、全教職員・学生分の災害時用備蓄食料を調達する5ヵ年計画に基づき、期限の迫った備蓄食料を放出するとともに、不足分を新たに調達し、備蓄食料の補充を行った。</p> <p>○ 実施した訓練・研修</p> <p>政府総合防災訓練(7月29日)</p> <p>南海トラフ地震を想定し、三重県、大阪府、兵庫県、和歌山県を被災地とした政府主催の広域搬送訓練に参加し、同日、当訓練と連動して、院内で情報伝達訓練、災害対策本部訓練、机上訓練、物資調達訓練等を行った。</p> <p>当訓練には、災害対策本部長(病院長)をはじめ、災害対策本部要員など119名が参加した。</p> <p>○ DMATの訓練への派遣実績</p> <p>① 政府総合防災訓練(7月29日)</p> <p>南海トラフ地震を想定し、三重県、大阪府、兵庫県、和歌山県を被災地とした政府主催の広域搬送訓練に参加し、DMAT調整本部(県庁)に4名、白浜SCU(南紀</p>	III	IV	



			<p>白浜空港)に3名、加太 SCU (コスモパーク加太)に1名の計8名のDMATを派遣した。</p> <p>② 平成29年度岩出市地域防災訓練(12月3日) 山崎北小学校にDMAT 1名を派遣し、「和歌山県立医科大学附属病院DMATチームによる災害医療活動体験講話」として、熊本地震での活動について講演を行った。</p> <p>③ 海南市消防本部・海南海上保安署合同多数傷病者発生時の対応訓練(2月13日) 貨物船の沖合での座礁事故を想定した海南市消防本部主催の訓練に参加し、下津港湾合同庁舎北側岸壁及び地先海域に計6名のDMATを派遣した。</p> <p>④ 近畿地方DMATブロック訓練(2月17日) 大阪府北部を震源地とし、マグニチュード7.5、最大震度7の地震を想定した大阪府主催の訓練に参加し、ドクヘリ本部(大阪大学医学部附属病院)に3名、ドクヘリ調整部(大阪府庁)に4名、災害拠点病院(大阪医療センター)に1名(コントローラー)の計8名のDMATを派遣した。</p> <p>○ 備蓄食料の調達状況 5ヵ年計画の2周目第1回として、大学、附属病院、保健看護学部、紀北分院の教職員及び学生のための災害時用食料、飲料水を購入した。 なお、平成29年度購入分の内訳は以下のとおり。</p> <p>【食料(ビスケット)】 大学・附属病院 4,800食 保健看護学部 900食 紀北分院 300食</p> <p>【飲料水(2Lペットボトル)】 大学附属病院 1,440本 保健看護学部 270本 紀北分院 90本</p> <p style="text-align: right;">〈危機対策室〉</p>			
--	--	--	---	--	--	--

第 2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 附属病院に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-㊸-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-29)(IV-3)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(2) 地域医療への貢献に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価										
ウ	地域の医療機関との役割分担と連携強化を行うとともに、専門的な情報発信を通じて地域の医療水準の向上に貢献し、地域医療の推進を図る。	連携登録医に対し、大学図書館の文書検索システム及び紹介患者の診察情報参照システムの利用促進を図る。また、地域の医療機関への専門的な情報発信を行い地域医療の推進を図る。	<p>連携登録医に対して、図書館使用のカードを発行し利用を促した。また、連携登録医に対し、本学へ紹介した患者の診療情報を個々の診察室で参照できるシステム「青洲リンク」の登録を促した。</p> <p>例えば①病院訪問時などにも加入を勧誘した ②利用促進のため、医療連携交流会で説明会を開催した。</p> <p>メディカル・オンラインの閲覧数は徐々に増加し、「青洲リンク」の登録数 12 病院、29 診療所、106 薬局(平成 30 年 4 月現在)となった。また、同意患者数は以下の通りである</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H27.4</td> <td>H28.4</td> <td>H29.4</td> <td>H30.4</td> </tr> <tr> <td>登録患者数</td> <td>168</td> <td>232</td> <td>450</td> <td>710</td> </tr> </table> <p>今後も利用促進に努めたい。</p> <p style="text-align: right;">〈患者支援センター〉</p>		H27.4	H28.4	H29.4	H30.4	登録患者数	168	232	450	710	III	IV	
	H27.4	H28.4	H29.4	H30.4												
登録患者数	168	232	450	710												

第 2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 附属病院に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-㊸-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-29)(IV-3)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(2) 地域医療への貢献に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
エ 県及び地域の医療機関との連携等により、救急医療、災害医療、へき地医療等の各医療体制の充実を支援するとともに、県地域医療支援センターを中心とした地域及び県民に対する医療及び看護に貢献する医療・看護従事者を充実する仕組みを構築する。	a 地域の医療機関で勤務する若手医師を支援するため、遠隔医療支援システムによる勉強会等の配信を実施するとともに、遠隔外来等の実施に活用することにより、県内の地域医療を支援する。	地域の医療機関で勤務する地域医療枠医師等が大学まで来ることなく、勉強会等に参加できるように遠隔医療支援システムによる配信を定例的に実施するとともに、遠隔外来を実施した。 学内で開催されている講演等を配信し、最新の医療情報等をより広く早く伝えることにより、地域医療の充実及び医療従事者の資質向上を図った。  【実績】 ・遠隔外来 26回 ・講義の配信等 50回  〈地域医療支援センター〉	III	IV	
	c 保健看護学部の教育において、救急医療における看護の実践や災害医療における看護の役割を学ばせるとともに、県内の地域医療の実際を体験させる臨地実習並びに特別実習を実施する。	救急医療及び災害医療における看護の役割を修得できるよう、2年次後期の選択科目に「救急医療（災害医療を含む）」を配し、2年生全員（79名）が受講した。 加えて、医学部学生と合同で地域・へき地医療のあり方について考えるため、医療を中心に据えたまちづくりに取り組んでいる地域医療の先進地である岡山県の哲西町診療所において特別実地研修を実施した。（保健看護学部1年次生4名、医学部1年次生3名）  〈保健看護学部〉	III	IV	

第 2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 附属病院に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-㊸-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-29)(IV-3)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(3) 研修機能等の充実に係る目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価																														
ア	専門診療能力及び総合診療能力を有する医師を育成するため、臨床研修協力病院や社会福祉施設等とも連携しながら、卒後臨床研修プログラムの充実を図る。	<p>a 和歌山研修ネットワークにより、本院も含めて県内の基幹型病院で採用された研修医の各病院間での相互受入を行うとともに、卒後臨床研修センターの体制を整備し、本学における研修医受入体制の強化を図る。</p> <p>また、指導医講習会を開催し、県内臨床研修病院における研修医の指導体制を強化する。</p>	<p>平成 29 年 12 月 2 日 (土) 及び 3 日 (日) に厚生労働省が定める「医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」に則った指導医講習会を開催し、38 名が講習を修了した。</p> <p>また、和歌山研修ネットワークにより、本院と県内の基幹型研修病院との間で研修医の相互受入を行った。</p> <p style="text-align: center;"><b>他院からの受入</b> (名)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>赤十字社和歌山医療センター</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> <tr> <td>和歌山労災病院</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td>紀南病院</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td>新宮市立医療センター</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td>橋本市民病院</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">15</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;"><b>他院への派遣</b> (名)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>和歌山労災病院</td> <td style="text-align: center;">37</td> <td style="text-align: center;">41</td> </tr> <tr> <td>新宮市立医療センター</td> <td style="text-align: center;">29</td> <td style="text-align: center;">34</td> </tr> </tbody> </table>		28年度	29年度	赤十字社和歌山医療センター	4	8	和歌山労災病院	0	3	紀南病院	1	2	新宮市立医療センター	1	1	橋本市民病院	0	1	合 計	6	15		28年度	29年度	和歌山労災病院	37	41	新宮市立医療センター	29	34	III	IV	
	28年度	29年度																																		
赤十字社和歌山医療センター	4	8																																		
和歌山労災病院	0	3																																		
紀南病院	1	2																																		
新宮市立医療センター	1	1																																		
橋本市民病院	0	1																																		
合 計	6	15																																		
	28年度	29年度																																		
和歌山労災病院	37	41																																		
新宮市立医療センター	29	34																																		

			南和歌山医療センター	30	24				
			橋本市民病院	13	23				
			赤十字社和歌山医療センター	14	21				
			紀南病院	9	10				
			国保日高総合病院	6	9				
			和歌山生協病院	0	5				
			合 計	138	167				
			<p>その他、自由度が高い研修プログラムが評価され、29 年度医師臨床研修マッチング中間公表において 68 名（大学病院本院全国第 4 位）から 1 位希望があり、最終的に 73 名の研修医を採用した。</p> <p style="text-align: right;">〈地域医療支援センター〉</p>						

第 2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 附属病院に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-0)(II-0)(III-29)(IV-3)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(3) 研修機能等の充実に係る目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価						
イ 地域医療を担う医療人の育成を図るため、総合診療教育をはじめとする教育及び研修を充実させる。	<p>b 新人看護職臨床研修の継続、新人看護職と2年目看護職以上の技術習得支援及び附属病院看護部臨床ラダーに沿ったキャリア開発支援のための研修を計画的に取り組む。</p> <p>また、地域の医療機関の看護職に対して、実務研修及び公開（講義）研修を開催し、認定看護師等の指導のもと、知識及び技術向上のための研修を実施するとともに、地域の医療機関における看護職教育のためのプログラム策定への支援を行う。</p> <p>さらに、看護キャリア開発センターにおいて看護師</p>	<p>専門的技術・技能を備え、看護の新たな可能性に挑戦できる感性豊かで創造的な看護職員を育成するという附属病院看護部の教育理念・方針に基づき、看護キャリア開発センターにおいて研修計画を立案している。</p> <p>平成 29 年度は集合研修を有効的に活用するため、シミュレーション研修、グループワーク等を除く、座学のみとなる研修に E-ラーニングを導入したことから、研修数は減少したが、E-ラーニングの視聴割合は増加した。</p> <p>また、若手技術支援については、当院ではパートナーシップ・ナーシングシステムによる OJT を実施していることから、受講者は減少したが、OJT による技術習得が難しい部署からの受講者に対して、密度の高い研修を行うことが出来た。</p> <p><b>E-ラーニング視聴割合</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28 年度視聴割合</th> <th>29 年度視聴割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>E-ラーニング</td> <td>59%</td> <td>84%</td> </tr> </tbody> </table>		28 年度視聴割合	29 年度視聴割合	E-ラーニング	59%	84%	III	IV	
	28 年度視聴割合	29 年度視聴割合									
E-ラーニング	59%	84%									

特定行為研修を開講する。

当院看護師向け研修

	28年度		29年度	
	研修数	受講者数	研修数	受講者数
新人看護師研修	29	1,564	23	1,367
キャリアラダー別研修	47	1,113	35	811
若手技術支援	16	525	26	362

公開研修についても、座学を減らす院内研修の見直しによる対象研修の減により、参加者が減少した。

県下12施設の主要医療機関の教育担当者と、研修の企画や運営、教育指導者の育成等の看護職教育に関する問題を明確にし、医療機関相互に支援しあう意見交換会を初めての試みとして開催し、講師の選定や研修の学びを現場で活かすための具体策を持ち帰り、自施設で活用した。

外部から参加可能な研修等

	28年度			29年度		
	研修	受講者	参加施設	研修	受講者	参加施設
公開研修	19	116	20	6	37	9
認定看護師学習会	8	112	20	8	63	10
実地研修	—	4	2	—	2	2

29年2月に看護師の特定行為研修を行う指定研修機関として指定を受け、4月から開講した。研修科目には共通科目と区分別科目（当院では5区分受講可能）とがあり、それぞれ講義、演習及び実習からなるが、共通科目の講義・演習を放送大学が、共通科目の実習及び区分別科目を当院が実施した。

受講生の確保について、研修運営委員会等で検討し、本研修に対する助成金支給の対象となる地域密着型病院16施設や和歌山県看護協会で説明を行うなどの広報活動を行った。また、研修内容の充実を図るため、看護キャリア開発センターと研修指導者間で月1回以上の会議を開催し、他の研修機関との情報交換で得た内容を参考に、講義や実習の内容等について検討し、改善を行った。





第 4 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

1 自己収入の増加に関する目標を達成するための措置	自己評価	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-0)(II-1)(III-5)(IV-1)】
	委員会評価	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価																
イ	診療報酬請求内容の精度を高め、診療報酬の一層の適正化を推進する。	a 診療報酬の査定状況の分析及びその周知、査定減を図るための研修会の開催、査定事案の請求事務担当者間での情報の共有化により査定点数の縮減を図る。	<p>医師等に対して保険診療講習会を開催し、カルテ記載や査定事例について説明し、注意喚起を行った。また、入院医事事務担当職員に対しても診療報酬の研修会を行い、診療報酬算定時における注意事項等について周知を行った。</p> <p>さらに、入院査定率の高い診療科については、カンファレンスに出向き査定内容について説明し、今後の取組み等について情報共有を行った。</p> <p><b>査定率の状況</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>27 年度</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外来</td> <td>0.78%</td> <td>0.88%</td> <td>0.90%</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>0.84%</td> <td>1.05%</td> <td>0.80%</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>0.83%</td> <td>1.00%</td> <td>0.83%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">〈医事課〉</p>		27 年度	28 年度	29 年度	外来	0.78%	0.88%	0.90%	入院	0.84%	1.05%	0.80%	全体	0.83%	1.00%	0.83%	II	III	
	27 年度	28 年度	29 年度																			
外来	0.78%	0.88%	0.90%																			
入院	0.84%	1.05%	0.80%																			
全体	0.83%	1.00%	0.83%																			

第 4 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

1 自己収入の増加に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-0)(II-1)(III-5)(IV-1)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価																																								
ウ	科学研究費補助金等に関する情報収集及び提供を行うとともに、企業との共同研究及び受託研究を推進・支援し、外部資金の獲得を図る。	<p>b 企業等との共同研究、受託研究及び企業等からの寄附講座、受託講座の受入を推進し、外部資金の獲得を図る。</p> <p>様々な機会をとらえて、県内外企業に対して共同研究・受託研究等に関する働きかけを行った結果、平成 29 年度における企業との受託研究・共同研究の契約締結件数は以下のとおりとなった（国及び公的機関等からの受託を除く。）。</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="4">受託研究 (件、社、円)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>27 年度</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> </tr> <tr> <td>契約締結件数</td> <td>29</td> <td>29</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>契約企業数</td> <td>24</td> <td>26</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>収入金額 (債権計上額)</td> <td>23,840,060</td> <td>137,849,865</td> <td>166,083,029</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th colspan="4">共同研究 (件、社、円)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>27 年度</th> <th>28 年度</th> <th>29 年度</th> </tr> <tr> <td>契約締結件数</td> <td>36</td> <td>35</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>契約企業数</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>収入金額 (債権計上額)</td> <td>28,808,291</td> <td>36,217,083</td> <td>14,848,856</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">〈研究推進課〉</p>	受託研究 (件、社、円)					27 年度	28 年度	29 年度	契約締結件数	29	29	40	契約企業数	24	26	27	収入金額 (債権計上額)	23,840,060	137,849,865	166,083,029	共同研究 (件、社、円)					27 年度	28 年度	29 年度	契約締結件数	36	35	37	契約企業数	24	25	22	収入金額 (債権計上額)	28,808,291	36,217,083	14,848,856	IV	III	
受託研究 (件、社、円)																																													
	27 年度	28 年度	29 年度																																										
契約締結件数	29	29	40																																										
契約企業数	24	26	27																																										
収入金額 (債権計上額)	23,840,060	137,849,865	166,083,029																																										
共同研究 (件、社、円)																																													
	27 年度	28 年度	29 年度																																										
契約締結件数	36	35	37																																										
契約企業数	24	25	22																																										
収入金額 (債権計上額)	28,808,291	36,217,083	14,848,856																																										

第 4 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I-0)(II-1)(III-3)(IV-0)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
ア	財務状況の分析や適正な業務実績の評価に基づく効果的な経費配分を行い、学内の資源を有効に活用及び運用することにより、教育、研究、臨床の質の向上を図りつつ、管理経費、診療経費等を抑制する。	b 経営管理会議を開催し、経営状況の情報共有と分析を行い、経営改善を進める。 (紀北分院)	各所属長が構成員の経営管理会議を毎月(12回)開催し、経営状況とその分析についての情報共有を図り、経営改善に向けて検討を行った。 ・業務損益 △261,983 千円(平成 28 年度 △272,405 千円)	II	III	